

知北平和公園組合 合葬墓地設計業務プロポーザル

提案評価講評

合葬墓地はこれまで官民間問わず全国各地で整備されていますが、その合葬墓地の形態が本当に利用者の求めるもので、その合葬墓地の利用の仕方が我々の歴史・文化・習慣にあっているものなのかという懸念がありました。

そのため「知北霊園合葬墓地整備方針」を取りまとめるにあたり、知北霊園の墓地に関する住民アンケートを行い、新たに整備する合葬墓地に期待されるサービス・デザイン・制度を把握してきました。

本プロポーザルでは、提案グループの「知北霊園合葬墓地整備方針」に関する理解、墓地に関する実績や知識の深さ、知北霊園を取り巻く環境の把握などを反映させた具体的な計画が提案内容にどのように反映されていたかを評価するため、選定基準の評価の視点に基づき提案内容の審査を行いました。

ここで改めて「知北霊園合葬墓地整備方針」と「選定基準の評価の視点」がどのような関連性があったか整理すると、以下のような考え方ができ、それをどのように提案内容に反映するかが重要な点であったと思われます。

1. 墓地に対する多様な考え方を反映し、合葬墓地は合同埋蔵方式と個別収蔵方式の2種類の方式を整備【業務の目的・条件・内容の理解度】します。
2. 墓地に関する不安を和らげるため、組合が将来にわたり合葬墓地を管理【更新工事・埋蔵施設の増設に対する配慮】【施設・設備・植栽等の維持管理の容易性】するものとし、併せて利用しやすい使用料【提案内容と整備想定事業費の整合性】【ライフサイクルコストや長寿命化への配慮】を設定します。
3. 合葬墓地は故人の尊厳を保ち【埋蔵・改葬の容易性】、利用者が心穏やかに参拝できる場所【利用者の利便性】【利用者の供養感情への配慮】とし、樹木や景石など自然に囲まれた合同埋蔵墓地【周辺環境との調和性】や、管理しやすい和風建物（参拝所・個別収蔵室・管理施設）【意匠の統一性】【管理運営の容易性】などを整備します。
4. 利用者ニーズに基づき、納骨堂に類似した室内で骨壺を収蔵する施設や、合葬墓地の権利を生前に取得できる制度【その他独自の提案】などを検討します。

一方で、提案内容を比較してみると、以下の項目で大きな違いが見受けられ、この違いが各提案者の提案の特徴となったと思われます。

1. 計画地の造成と高低差の活用方法の違い（「平面的」、「丘陵的」、「擁壁整備」）

2. 合同埋蔵墓地の参拝方法の違い（「鑑賞式」、「回遊式」、「露地式」）

3. 合葬墓地全体の雰囲気の違い（「明るく広々とした空間」、「囲まれた静謐な空間」）

このような経緯を踏まえ、選定方法及び選定基準に基づき評価を行い、受託候補者、次点者及び次々点者を選定しました。

受託候補者の提案内容は、知北霊園を取り巻く環境を把握したうえで、故人の尊厳の確保や利用者が心穏やかに参拝できる具体的な提案、さらに樹木などに関する豊富や経験が評価されました。

次点者の提案内容は、建物・合葬墓地・植栽が調和・統一されたうえで、空間の余白・時間の余白があり、末永く愛される和風デザインであったことが高く評価されました。

次々点者の提案内容は、計画地全体を自然に囲まれた雰囲気としてうえで、高低差を利用した多様な参拝方法や特徴的で魅力的な施設のデザインが高く評価されました。

最後に、どの提案グループの内容も素晴らしく、これからの日本の合葬墓地の形態や在り方を考えさせられる内容を含むものであり、今後のさらなる活躍を期待する提案ばかりでした。